

5月に企業の都合で離職した田中敬太郎さんは「ベッドメイキングやおむつ交換など実習も丁寧。介護には必ず実務経験が必要だと思っていました。意欲があれば資格が取得できると聞いて、心強く感じました」。今年3月に雇い止めにあいましたが、今では毎日YMCAに来るのが楽しみです」と話すのは竹下奈緒さん。「良い面もそうでない面もそのままに、介護の実情を伝えてくれるので固定観念が取り払われ、視野が広がりました。講座を通して、自分を否定せず、相手も否定しないことが大切だと気づかされ、感謝しています」と明るく答えてくれました。

一人ひとりに合わせたサポート講師と受講者が一体となって

吉田さんは、「YMCAで職業訓練を受ける人の中には、厳しいと感じる人もいるようですが、私たち講師も120%の力で受講者に向き合っています。おかげで、修了後にYMCAで受講してよかったと言ってくれる人も多いいんです。介護分野への再就職を希望している人に、YMCAでの受講を勧められることもあるようです」と、講座に対する思いを語ってくれました。

熊本YMCAで行う職業訓練について、熊本高等技術訓練校の吉安さんは、「受講者一人ひとりを大切に接していただいています。専門的な内容に限らない、講師の方々のサポートが次の仕事に対する自信にもつながっているようです」。雇用能力開発機構熊本センターの小田さんからは、「同じ目線に立って、日々受講者を励ましな

がら、対応してもらっています。現場では技術のほかにコミュニケーション能力も必要とされます。そうした幅広いスキルの習得に役立つと思います」との声が聞かれました。

幅広い年代の人々が集う地域の学校

現在、熊本YMCAでは職業訓練のほか、講師と受講者が一対一になって丁寧な実技指導を行い、介護福祉士の国家資格試験の実技試験免除が得られる4日間の介護技術講習会、介護福祉士の受験対策講座ならびに模擬試験を実施しています。また、熊本県シルバー人材連合会からの委託事業である訪問介護員、保育と子育て支援コースは、60歳以上を対象にしたシニアワークプログラムです。職場をリタイア後、まだまだ働く意欲のある人の再就職支援を目的に行われています。会場である東部YMCAには、これらの講座を受ける幅広い年代の人たちが集まり、コミュニティが形成されています。



発達障がいのある青少年への支援セミナー

ADHDサポーターのために



ADHDへの理解を深め、子どもたちによりよい支援を

熊本YMCAが発達障がいのある子どもたちの支援活動を始めて13年目。現在80名の子どもが支援プログラムに参加しています。9月5日(土)、発達障がいを専門とするDr.ロバート・J.リーラーさんと、ソーシャルワーカーで発達障がいのある子どもを親を支援する奥様のジャニス・リーラーさんをアメリカから迎え、セミナーが開かれました。ロバート・J.リーラーさんは、「ADHD(注意欠陥・多動性障害)は表面には見えない障がい、その原因の大半は遺伝だと考えられています。アメリカでは教師が気づいて医者を紹介するケースがほとんど。学校に常駐する心理カウンセラーが診断テストを行い、その結果により医師が薬を処方するという連携が行われています」と説明されました。続けて、アメリカでは50年前からADHDの薬の研究が行われており、薬による治療が一般的だと紹介。「アメリカをはじめ各国の研究結果により、神経疾患であることも認識されています。脳が情報を伝達する際は、神経伝達物質であるドーパミンとノルアドレナリ

ンが発生します。この2つの物質には、多動性・衝動性を抑える働きもあり、ADHDの場合はその量が不十分。そのため、カウンセリングや特別な教育だけでは、症状を改善することができません。ドーパミンやノルアドレナリンを補うADHDの薬はメガネと同じ。メガネが視力を改善するわけではなく、かける間はよく見えるようになります。薬は症状を改善する時間が区切られているため、時間が経つと薬の効果も消えます。しかし、効いている間に学んだことは記憶に残ります」。

また、授業と併せて、両親と学校の先生たちが一つのチームとなってサポートすることも重要だと力説されました。「熊本YMCAでも実践されているように、1対1で対応することが大切。子どもの自尊心を育てるように努め、その子の強みを見つけて一緒に伸ばすように心がけましょう。ADHDの子どもに何か伝える時は、はっきりと簡単な言葉で何度も繰り返し伝えること。多くの目標を一度に与えないことも効果的です。サポートする側もコミュニケーションを密に図り、愛情と忍耐を持って付き合うことが肝心です」と、アメリカでの現状を交えながら話されました。

さらに、ジャニス・リーラーさんからは、よい行動を点数制にして、たまった点数に応じて報酬がもらえるという行動修正法「トークン・エコノミー」について説明もあり、参加者たちは熱心に聞き入っていました。

REPORT

大舞台で成果を発揮 水上フェスティバル

開催日時/2009年9月13日(日)8時半~12時
開催場所/パークドーム熊本



熊本YMCAの水泳教室に通うメンバーが一堂に会し「水上フェスティバル」が開催されました。約170名の参加者が、普段とは違う大きな施設で緊張や不安を感じながらも、練習の成果を一杯発揮しました。保護者参加によるリレーも行われ、声援を送っていた保護者が子どもたちやリーダーと共に力泳。保護者ボランティアが受付や計測を担当するなど、参加者が一体となった大会でした。

母子・父子家庭の子どもたちと秋のりんご狩りデイキャンプ

開催日/2009年9月13日(日)
開催場所/阿蘇



ながみねファミリーYMCAでは、熊本ひがしワイズメンズクラブの協力のもと、母子・父子家庭対象のりんご狩りデイキャンプを開催。天候に恵まれ、阿蘇の大自然の中、子どもたちは楽しい時間を過ごしました。りんご狩りでは、おいしいりんごの見分け方を習い、赤く色づいたりんごを収穫。昼食は阿蘇YMCAのピザ窯でピザを焼き、デザートには収穫したばかりのりんごを「焼きりんご」にして味わいました。参加者全員がリフレッシュできたキャンプでした。